

第3回健康生きがい学会報告

厚生労働省の介護の将来像では、地域包括システムの実現が取り上げられています。

健康生きがい学会分科会の中から地域包括ケアシステムに関係ある発表を2点抜粋してご報告します。

第3分科会 健康生きがいと住まいづくり

大谷るみ子 氏（社会福祉法人東翔会
グループホームふぁみりえ）

はじめに

福岡県大牟田市は、日本でもトップクラスの高齢化率を誇る町です。認知症の介護問題が「待ったなし！」の状況が続く中、行政と専門職、地域住民が協働のスタイルを生み出しながら、多くの認知症支援に取り組んできました。

認知症支援の入口は「共感」、そして出口は「まちづくり」です。やがては私も通る道。認知症の本人や家族の気持ちや願いに共感し、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指しています。

地域認知症ケアコミュニティ推進事業

絵本「いつだって心は生きている大切なものを見つけよう〜」は、平成15年度の地域認知症ケアコミュニティ推進事業の一環で、地域の24人の子供たちと一緒に作成されました。

認知症の病気や症状、マイナス面ばかりが伝わってしまうのではなく、認知症の人の思いや願い、豊かな感情や力、そして不思議な引力のようなものが伝わるように、私たちが出会った認知症の方々をモデルに、「徘徊」を「冒険」ととらえる子供たちの感性豊かな言葉を目線に大事にして描きました。

平成16年度から、小中学校の総合学習の時間に、絵本を使った出前教室を行っています。わずか2時間程度のグループワークで、ほとんどの子供たちが「認知症は病気であること」「認知症の人の不安な気持ち」「一番困っているのは本人」ということを理解してくれます。そして「認知症の人が安心して暮らせるために僕たちにできること」について意見を沢山出してくれます。子供たちはだんだん「人として大切な思いやりの心」「互いに助け合って、支え合うことの尊さ」、そんな大切なものに近づいてくれるのです。平成21年度は17校に出かけて行きました。

絵本教室を入口にして地域福祉活動に取り組んでくれる学校もあります。大牟田市が取り組む徘徊模擬訓練に参加したり、地域の会合に出かけ認知症の理解を広めるための寸劇をやったり、地域住民と世代を越えたまちづくりの意見交換ができるまでになった学校もあります。子供たちは、認知症の人の理解や支援を入口にして、まさに人として大切なものにまっすぐに向かっているようです。そんな子供たちの姿を通して、また地域の大人が「まちづくり」の大切さ、行動することの意義を実感してくれるのです。

実はこの絵本、子供たちのために、そして子供と語り合う大人や地域のためにつくったものです。子供たちの豊かな感性と認知症の人の不思議な引力、そして支援の大切さを伝えたいと願う私たちとのコラボレーションの成果なのです。

私のグループホームでは、絵本で学んだ小学生とお年寄りとの交流が約2年にわたって交流を深めてきました。

このほど作文が苦手だったSちゃんがAさんというお年寄りとの交流を作文にしてくれました。題して「もう一人の私の家族」。原稿用紙5枚にわたってじっくりと育った二人の絆が描かれていました。

絵本にない、もう一つの大切な物語です。

地域認知症ケアコミュニティ推進事業

平成14年度から、大牟田市地域認知症ケアコミュニティ推進事業がスタートしました。①認知症の人の尊厳を支えるケアや支援の牽引役である認知症コーディネーター養成研修、②徘徊模擬訓練を通してつくる徘徊SOSネットワーク、そして③絵本「いつだって心は生きている大切なものを見つけよう〜」の作成と小中学校への絵本教室もその一環です。

平成16年度から取り組んだ徘徊模擬訓練も今では市内全域に広がってきました。徘徊はまさに地域ケアの課題です。認知症の人の理解が深まり、徘徊をノーではなく安心して徘徊できる町を目指しています。

平成18年度からは地域包括支援センターと認知症コーディネーター・もの忘れ相談医・専門医が協働し「もの忘れ相談検診・予防教室」に取り組んでいます。早期発見と初期支援が充実することで、認知症の人が初期から人生の最期まで尊厳をもって生きることを支えていきたいと思えます。

平成21年度からは、専門医と認知症コーディネーターがチームになって「地域認知症サポートチーム」の活動に取り組んでいます。これは認知症の人を支える専門職を支える面をつくらうというものです。診断やケアなどさまざまな困難な事例に対して、医療とケアの両面から適切な助言やサポートをしようというものです。

平成16年度から始めた徘徊模擬訓練は、大牟田市ほとと・安心（徘徊）ネットワークの構築を目指して、市内23校区の小中学校校区のたった一つの「はやめ南人情ネットワーク」から始まりました。年々、地域に広がり、第6回目の昨年は、認知症サポーター講座や啓発活動など、校区独自の活動を行った校区が18校区、ほぼ全域へと広がってきました。

平成23年度8回目の徘徊模擬訓練は、さらに地域の理解が浸透し、「わがまちを、わが校区を安心して徘徊できる町へ」と近づく良い機会としたいと思います。

平成18年度から介護保険サービスの仲間入りをしたのが、小規模多機能サービスです。グループホームと並んで地域密着型サービスと位置づけられました。

たとえ認知症であっても住み慣れた地域や家で可能な限りねばって暮らす、そんな生活支援を目指しています。

認知症の方々が置かれている状況はさまざまです。家族の介護力が高いところもあれば、独居で深刻な経済状況であることもしばしばです。家族だけでは支えられない、そして実は介護サービスだけでも支えられません。地域全体で認知症の人や家族をつつみこむような、そんなまちづくりが不可欠なのです。

一人ひとりを大切にできるまちになっていくために、心と力を合わせて進んでいきたいと思えます。